

MRI 検査でなぜ金属チェックをするの？

——見えない“磁石の力”を安全に——

MRI 検査を受けるとき、「体の中や身につけている金属はありませんか？」と何度も確認された経験はありませんか？

「そんなに聞かなくても」と思われるかもしれませんが、これにはしっかりした理由があります。

私は MRI を専門とする磁気共鳴専門技術者として、日々多くの検査に携わっています。今回は、MRI 検査を安全に受けていただくために、金属チェックの大切さについてお話しします。

MRI は、磁気を使って体の中を詳しく調べる検査です。放射線を使わないため被ばくがなく、安心して受けられる検査として多くの診療科で利用されています。脳や背骨、関節、内臓など、目では見えない部分まで写し出すことができ、病気の早期発見や治療方針の決定にも役立つ信頼性の高い検査です。

ただし、この MRI にはとても強力な磁石（静磁場）が使われています。装置のまわりでは、金属の椅子や鍵を近づけると一瞬で引き寄せられるほどの磁力が常に働いており、磁石に反応する金属が体の中にあると、動いたり熱を持ったりする危険があります。手術で入れた金属のプレートやボルト、人工関節、血管用クリップなどには、MRI に注意が必要なものもあります。

また、画像をつくるために使われる高周波電磁波（RF 波）は、体内の水分に反応して信号を出します。金属があると電流が集中し、局所的に熱をもつことがあります。ピアス、ネックレス、カイロ、化粧品のラメ、貼り薬や湿布などの貼付剤も思わぬ発熱の原因になるため、検査前に外していただいています。

さらに、「ヒートテック」などの発熱・保温素材の衣類にも注意が必要です。湿気を吸って発熱する仕組みや金属繊維を含む素材が使われている場合があり、撮影中に熱を帯びてやけどを起こすことがあります。そのため、検査の際は必ず病院で用意した検査着に着替えていただくようお願いしています。安全を確保するうえで最も確実な方法です。

MRI 検査を安心して受けていただくためには、金属の確認や更衣がとても大切です。

体に入っている金属や手術歴、気になることがあれば、どうぞ遠慮なくお知らせください。
私たちが安全を守りながら、最良の画像をお届けします。



【放射線技術科係長 中村 昌弘】

